

河川
改修
など

ダムによらない治水対策を

日本共産党・仁比議員が台風16号、川辺川ダム治水問題で追及



※人吉地区の河川整備計画は基本高水流量を7000トンとし、この内、市房ダムと川辺川ダムで3000トンカットし、4000トンの河道を確保する。現在の流下能力は掘削、築堤で3900トンまで確保している。

●清治真人河川局長
流量は毎秒4300トン
で計画の4千トンを上回る。
水位のピークは8月30日
16時40分の3.96メートル。

◎仁比聡平参議院議員
16号台風で、人吉地区では毎秒何トンの水が流れたのか。また、観測地点での水位は。

人吉地区―16号台風で計画をこえる降水量 38年もたつ現行の河川計画は見直すべき(仁比)

●穀田恵二党国対委員長(左3人目)、宮岸徹・赤嶺政賢衆議院議員秘書(左2人目)らと現地調査する仁比議員



日本共産党の仁比聡平参議院議員は11月25日、災害問題を議論する国土交通委員会で8月30日の台風16号に関わる被害と川辺川ダムの治水問題で質問。9月16日、11月12、13日の2回の現地調査をもとに、政府の見解をたどりました。
以下その要旨を紹介します。

昭和30年代からくり返される芦北町の水害被害 調査し、宅地かさあげなど 早期に対策を実施(大臣)

◎仁比聡平参議院議員
芦北町漆口(うすくち)で水害を受けた方から、今回も2メートルを越える水が出た。畳が跳ね上がり、冷蔵庫など家財道具が流された「2階の窓などは、締めきりにすると家が水圧で壊れるので、開け放しにしている」と聞いた。昭和30年代から今年も含め数回も繰り返し被害をうけている。例えばダムができて

も浸水が繰り返される地域だと国交省もいつている。直ちに対策をとるべき。

●北側一雄 国土交通大臣
国 熊本県 芦北町の3者が連携して対策に取り組む。今年度、現地調査し、来年度、具体的な治水対策について調査し、宅地かさ上げの整備方法など現地住民の声を聞きながら早期に対策を実施したい。

直ちに土砂堆積物を 浚渫すべき(仁比)

詳細な調査する(大臣)

◎仁比聡平参議院議員

計画の危険水位の3.40メートルもこえている。現地をみたが、織月大橋から西瀬橋付近、中川原公園周辺などの土砂が堆積している。かつては川や水が流れていたところだ。川の水量を確保するために直ちに土砂堆積物を浚渫すべきではないか。

●北側一雄 国土交通大臣
詳細な調査をして検討したい。

◎仁比聡平参議院議員
計画降水量の4千トンを超え、4300トンの水量がながれた。実態と計画に

は乖離がある。

現行の計画は、1966年に決定し、基本的な部分は変更せず38年もたつている。人吉地区の河川改修もすすみ、さらに上流部分の森林も成長し、森林の保水力も向上している。実態にかみ合わず、見直すべきではないか。

●北側一雄 国土交通大臣
河川法改正を受け新しい治水計画として方針計画を策定中。今年の洪水も含めて調査検討する。

◎仁比聡平参議院議員
責任をはたして、河川改修をするならダムによらない治水対策は球磨川流域において可能だ。